一般情勢報告

―昭和七年十月結成大會より昭和八年十月まで―

日本勞働組合會議九州地方協議會が結成されて玆に一年、その第二回年度大會の一般情勢報告をなすに當つて、われ等にまづ、九州に於ける資本主義の過去一ケ年の動向に就いて語らねばならぬ。

愈々、沒落を明確にした資本主義並にその一環をなす日本資本主義はインフレイション政策と並行して、産業合理化、生産制限、勞働強化、スピード、アップ等を强行し、九州の資本家階級も資本主義沒落の重壓に必死の苦悶とアガキを續け、その最後的延命策として最惡の勞働條件を以て最高の搾取を求め、失業群の氾濫する街頭へ更に多くの勞働階級を追放し、只一途に勞働階級の犧牲と迫害に依つてのみ、資本主義の破綻崩壞を匡救、再建せんと陰謀して勞働階級の生存の危機は急角度に加重した。

しかも、資本主義沒落廻避の最後的方策は必然的に國際市場に於ける無政府的鐵爭を招來し、關稅の高壁、互惠條約の廢棄、ブロック經濟の樹立に依つて、一齊に國際主義を排し、國家主義對立の旗幟を鮮明にした。その反動の狂濤に拍車を加へた軍事インフレイションの强制は局部的景氣を回復して資本主義の延命を錯覺せしめ、國際的な反動思想の潮流に乘じて資本家階級はその手先き共に國家主義、愛國主義の假面をかぶらせ、忠實に資本家階級の意圖を体して、勞働階級を永遠に資本家の奴隷とするために必死の努力を拂つた。特に頑迷暴戾な九州の資本家階級はその金力と權力と暴力を亂用し、黃金と[illegible]をかざして勞働階級の頭上に不當慘酷なる抑壓の鞭を加へた。

かゝる反動と苦難の九州の戰線に於て、われ等は夙に、健實なる勞働組合主義の旗の許に、勞働立法促進委員會並に日本勞働倶樂部の地方的延長機關として、勞働組合九州協議會を結成しその間加盟組合の融和、統制を益々緊密にして全國に比類のなき一身同体の代表的、勞働組合戰線の統一機關として、總同盟の纖紡總罷業、製鐵官民合同反對鬪爭、海員組合のゼネ、ス